

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 3 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200079		
法人名	社会福祉法人 みどり会		
事業所名	グループホーム 府中みどり園		
所在地	安芸郡府中町浜田1丁目6番7号 (電話) 082-281-6700		
自己評価作成日	平成24年12月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年1月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「自分が生活したい場所として思えるよう」という理念にあるように、自分が生活するとしたらどのようにしていけばよいかということで、生活環境（鍵をかけない、食器は陶器で、スタッフは制服ではなく）や、それぞれの時間を大切にしたい関わりを心がけている。また、外出の機会を多くつくるようにしていて、季節の行事、個別の外出に力を入れている。お祭りやイルミネーション、お月見と言った夜の外出、行事も多い。その成果を個別のアルバムにまとめていて、ご家族面会時にみてもらうようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム府中みどり園（以下、ホーム）は、周辺に小学校や中学校、保育園、幼稚園、スーパーマーケットなどの商業施設が多く立ち並ぶ場所にあり。同じ建物には、法人が運営するデイサービス、特別養護老人ホーム、ショートステイがあり、ホームは4階にあります。開設2年目を迎え、法人内の施設や事業所と協力しながら運営されています。ホームでは、理念を記載した「もしも自分だったらノート」を職員一人ひとりが持ち、理念の浸透を図られています。職員は、理念を具体化した目標を立て、全職員で共有し理念に沿ったケアに取り組まれています。入居者が思いや要望を自然に言えるよう家庭と同じような生活感のある雰囲気づくりに努められています。事業所の自己評価は職員一人ひとりが取り組み、何が達成でき何が課題なのか職員の気づきにも繋がられています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
お					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「府中みどり園を自分の生活したい場所にしていく」ということで、今年から「もしも自分だったらノート」というノートにそれぞれ理念にあった目標を書いて、毎月振り返りを実施している。	理念は開設時に作成されています。管理者が職員一人ひとりに、理念を記載した「もしも自分だったらノート」を手づくりし、理念の意識化を図られています。職員は理念に沿って具体的な目標を立て、職員全員と共有しながらケアに取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	府中中央小学校の朝の挨拶運動に施設長、リーダー、入居者の方と参加している。町内会にも入っている。運営推進会議は2か月に1回開催している。	とんど祭りや、地域のボランティア団体主催のふれあいサロンへ入居者と職員が一緒に参加されています。社会福祉協議会主催のふれあい祭では別法人と共同で相談ブースを設ける計画があり、ホームの機能を還元しながら地域の一員として活動できるよう取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、地域に取り組み内容を伝えていることと、広報紙を作成して、地域に配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、直接利用者の方から意見を頂いて、スタッフの会議で検討し、改善するようにしている。	会議には、入居者、家族、町内会長、民生委員、他法人のグループホーム管理者、町担当者などの参加があります。参加者から活発に意見が出され、運営に反映させるよう努められています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	府中町の事業者懇談会に参加したり、運営推進会議にて、サービスの取組み内容を伝えたりしている。	運営推進会議に町担当課の出席があります。町主催の事業所懇談会に管理者が参加し、連携を図られています。ホームでは、認知症アドバイザーの資格を持つ職員2人が、キャラバンメイト活動について、積極的に協力の申し出をされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、一部の入居者の方について、4本柵を使うことなどをご家族に説明しながらやむを得ず行っている。長期に柵がはずせない場合、リーダーで話し合い、ユニットで話し合いをもつようにしてもらっている。ホーム内は玄関も暗証番号の電子錠はなく、エレベーターも自由に行き来してもらえる環境とはなっている。</p>	<p>建物の玄関は施錠せず、見守りで安全確保に努められています。言葉や薬による拘束を行わない支援に努められています。職員が良かれと思ってしていることが拘束にあたる場合もあり、その都度注意されています。転倒の危険から、やむを得ずベッド柵やセンサーマットを使用する場合は、医師に相談し、家族の同意を得て行われています。</p>	<p>今後は、何が身体拘束にあたるのかという具体的内容について、職員全体で共通の理解を深めることを提案します。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止につとめているものの、言葉づかいなどまだまだ周知できていないところも日常見受けられる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護の研修を昨年は行ったが、今年はまだ開催していない。12月に開催しようと考えている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約については十分に時間をかけて行っている。不安なことをお聴きして、相談にのっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見箱の設置をしたり、直接苦情が言いやすい雰囲気をつくるなどの配慮をしている。苦情があった場合には、すぐに対応し、改善をはかるようにしている。</p>	<p>運営推進会議には家族が交替で参加されています。家族から体操をしてほしいとの希望があり、テレビ体操を取り入れた事例があります。ホームでは、ブログを開設し、日常の様子を家族に知ってもらい取り組みもされています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>話せる機会をつくり、個別に面接をして、反映できるものは反映する努力をしている。</p>	<p>職員の意見や提案は、リーダーから管理者に伝えられています。法人が設置する各種委員会に職員が属し、委員として意見や提案を運営に反映する機会があります。「一休会」、「しゃべりバー」など、職員が日頃の悩みや思い、意見を言える場づくりに取り組まれています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>努力しているものの、ユニットのスタッフからは「休憩時間がとりにくい」などの不満の声が聴かれたりすることがある。ミーティングで伝えたり、リーダーにとりやすくなるように依頼したりしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>認知症ケアの勉強会や、介護技術勉強会など定期的に行っている。外部の研修については、社会福祉協議会主催の勉強会などについて参加してもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>12月より、府中町の4グループホームで連携をとり、連絡会を立ち上げる予定となっている。今後は、交換研修などネットワークづくりをしていく予定。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>信頼関係がもてるように初期の面接の段階から、ご本人の気持ち、要望が聴けるように努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	信頼関係がもてるように、ご家族の気持ちを聴けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接時にしっかりとお聴きし、内容を理解して、ケアプランや24時間シートに活かし、対応できるようにつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者それぞれの認知症の症状が違い、難しい場面も多いができる限り、共に、過ごし支え合える関係であろうと努力している。スタッフが入居者の方のもつ力を発掘することの努力がまだまだ必要。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の力を感じることは多く、スタッフで駄目なことについて、家族の方に協力頂いていることもある。比較的、家族の方の面会も多く、助けられている部分大きい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのスーパー、馴染みの神社など、ご本人の馴染みの場所に行けるような機会を作っている。	アセスメントや日々の会話の中から、馴染みの人や思い出の場所を把握されています。地元の祭りに参加したり、友人宅を訪問したり、墓参りしたり、馴染みの関係が途切れないよう支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>月日を重ねるごとに馴染みの関係が出来ていて、ユニット内で会話が弾んでいる。認知症の進まれた方はなかなか関わりがもてない状況となっている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>亡くなられた方のご家族に会いに行ったり、思い出話をしたり、気持ちに添うような関わりをしている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>出来るだけ思いに添えるよう努力しているが、リビングが狭く、一人でほっとできるような場が作れない。本人本意に考えられるよう努力はしている。</p>	<p>アセスメントは、センター方式を活用し、生活状況を記録して思いや意向の把握に努めています。誕生日には入居者の行きたい場所へ出かけるなど、入居者主体の個別支援を大切にされています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>生活歴については、面接時にかなり細かく聴いていて、その方の生き方、生活などを大事にしている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>24時間シートを作成しているも、なかなかお一人おひとりの生活づくりが出来ていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>スタッフそれぞれに会議でアイデアを出しながら、計画に活かしているも、十分ではない。ケアプランもどちらかというリーダーだけが作成している。</p>	<p>ケアマネジャーを中心に6か月ごとにモニタリングを実施し、ケアプランの見直しが行われています。担当職員がアセスメントを行い、入居者、家族の希望をケアプランに反映されています。また、必要に応じて、医師や看護師の意見を聞き、現状に即した介護計画が作成されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の実践を記録に活かし、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>デイサービスにボランティアの方が来られる時には、グループホームの入居者の方も一緒に楽しめたり、ターミナル期の入居者の方にはご家族が愛犬を連れてきたり、「グループホームだから出来ない」ということをなるべくないようにしたいと考えている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>本のお好きな方を地域の図書館にお連れしたり、マッサージが好きな方にサロンでマッサージをしている時にお連れしたりしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>1週間に1度往診に来られる医師とは別に、ご家族が希望されれば、ご家族希望の病院へ受診している。</p>	<p>希望により、入居前のかかりつけ医の継続を支援されています。通院は家族の対応を原則とされています。緊急時などは、ホームで支援されます。医師や歯科医の往診があります。医療に関する情報をスタッフルームに掲示し、職員間で共有されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>グループホーム勤務の看護師と密に連絡、連携をはかり、適切な対応が行われている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された方については、リーダー、管理者が家族やMSWと連絡をとり、早期に退院できるように、対応している。また、ご本人のお見舞いにもスタッフが行って、ご本人の情報を皆で共有している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>今年は2件のターミナルケアがえんどう豆ユニットではあり、お二人とも、十分にご家族と話し合い、担当医とカンファレンスを開き、ホームで看取りを行った。終末期に関しての課題は沢山あると思う。</p>	<p>重度化や終末期の対応については入居時に希望を確認されています。また、家族には機会あるごとに確認し、希望があれば看取る方針を持たれています。終末期にはターミナルケアプランを作成し、チーム支援に取り組まれています。看取り後は、全職員で振り返りを行い、今後の支援につなげる取り組みをされています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>スタッフに経験者が少ない為、急変時の対応が個々のスタッフで同じように身につけてはいないが、緊急時に誰に連絡し、どのようにしたらいいかはこの2年あまりで把握されているかと思う。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>地域との防災協定を結んでいる。避難訓練も行っている。</p>	<p>年3回、建物全体で避難訓練を実施されています。年1回の訓練では、地域住民の参加があります。消防署の指導により、居室と他の場所のドアの色分けを検討されています。</p>	<p>今後は、入居者ごとの避難や救出方法を整理し、いざという時に外部の支援者に指示できるような仕組みをつくられることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけは常日頃、注意を払うようにしているが、完全に出来ているとは言えない。	遠くからの大声での話しかけや、慣れ合いの言葉かけにならないよう心がけられています。トイレ誘導は、他の入居者にわからないよう、さりげない声かけに配慮されています。入浴は希望により同性介助をされています。25年度は外部講師を招き、接遇に関する研修を予定されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選択していただけるような言葉かけをしたりしながら、ご本人が自己決定できるような配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	えんどう豆ユニットは日中、マンツーマンで対応が必要な方がおられて、なかなかすべて一人ひとりのペースでということは出来にくいですが、努力はしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	えんどう豆ユニットには、スタッフで髪を結ったり、マニキュアをつけたりということが上手なスタッフが数名いて、その方らしいおしゃれができるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日というは難しいが、出来る人になるべく声をかけるようにしている。	職員が、その日の食材を見て、手作りされています。家庭的な雰囲気を大切に、食器は陶器を使用し、茶碗やコップ、箸は入居者の持ち込みとなっています。入居者と職員は、一緒にテーブルを囲み同じものを食べ、家庭的な雰囲気が伺えます。個別の外食や、お弁当を持って家族と一緒に花見に出かける楽しみもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>全体の入居者の方を一覧で見ることが出来て、わかりやすく記録されている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>その人の習慣に合わせて、朝夕の方もいれば、夕方のみの方もいれば、毎食後の方もおられて、その方に合わせて、ケアしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレ委員の指導のもと、支援している。</p>	<p>トイレ委員を中心に、「紙パンツをなくそう」を目標とした支援をされています。入所者と、布パンツを買いに行き、おむつを使用しないケアに取り組まれています。排泄パターンを把握し、また、仕草や様子を見ながらトイレ誘導されています。リハビリパンツから布パンツ使用となった事例もあります。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>お通じがよくなるように、朝はバナナヨーグルトなどをお出することがある。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>えんどう豆ユニットはお風呂が嫌いな方が多く、入浴実施が難しい。声のかけ方、時間帯、男性職員が良い人、女性が良い人などいろいろと工夫はしている。</p>	<p>2日に1回、午前、午後の入浴となっています。脱衣室には暖房器具を置き、温度差に配慮されています。身体状況によっては特別養護老人ホームの風呂を使う場合もあります。法人全体で、「好みの風呂場で24時間いつでも入浴できる日」を設け、ラベンダー湯や薔薇の湯などで入浴が楽しめるよう工夫されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	おひるねをされる方もいれば、夜遅くまで起きておられる方、朝はゆっくり起きたい方など様々に過ごされている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	看護師、病院と連携して、実施している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	各入居者の方のそれぞれの外出、行事、趣味について、担当スタッフがいろいろと企画している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	行けないわけではないが、えんどう豆ユニットは入居者の方の状況とスタッフの状況により、実施が難しいことがある。	日常的には、ホーム周辺を散歩し気分転換を図られています。気候の良い時は、職員と一緒に近隣の小学校へ朝の挨拶運動に出かける入居者もおられます。ホームでは、ユニット間で協力しながら、個別の外出支援をされています。特に、誕生日は入居者が主役として外出されています。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	持ちたい方で自分で管理出来る人はしてもらっている。それ以外は事務所でお小遣いを管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から了承を得て、支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングのカーテンを入居者の方より、日中閉めてほしいと言われて、リビングが暗い雰囲気になってしまうこともある。季節の花を飾ったりなどの工夫はしている。	リビングは台所と一体で、料理の音や匂いがあり、生活感があります。入居者は椅子やソファで寛がれています。死角になる場所にも、テレビと椅子が置かれ、居場所づくりに配慮されています。ホームのベランダは、洗濯物を干したり、プランターで野菜作りをしたり、ベンチに座って日向ぼっこをしたり、入居者が自由に過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングがえんどう豆ユニットは狭いので、居場所づくりが出来ていない。エレベーターを降りたところにテレビを設置し、場所をつくろうと努力はしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族にお願いし、なるべく古い家具、その人らしい持ち物を持ってきてもらえるようお願いはしている。	居室は、ベッド、エアコンが備えつけです。入居者は、テレビやタンス、布団、ハンガー掛けなどを持ち込み、家族と相談しながら生活しやすく配置されています。家族の写真や作品を飾るなど、個性的な居心地よい空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりをつけたり、ポータブルトイレを設置したり、それぞれに入居者の方に合せ必要なものを設置し、工夫している。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「府中みどり園を自分の生活したい場所にしてい」ということで、今年から「もしも自分だったらノート」というノートにそれぞれ理念にあった目標を書いて、毎月振り返りを実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	府中中央小学校のあいさつ運動に入居者の方と施設長、リーダーが参加している。町内会にも入っていて、運営推進会議は2か月に1度開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、地域に取り組み内容を伝えていることと、広報紙を作成して、地域に配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、直接利用者の方から意見を頂いて、スタッフの会議で検討し、改善するようしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	府中町の事業者懇談会に参加したり、運営推進会議にてサービスの取組み内容を伝えたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>鍵をかけないケアについては、ホーム内で電子鍵がないこと、エレベーターは自由に乗り降りができるなど、行っている。身体拘束については、そら豆ユニットでは行われていない。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止については学ぶ機会をもっているものの、まだまだ言葉づかいなどが雑になる場面が見られる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>昨年、勉強会を開催しているが、スタッフの入れ替わりもあったので、今年も開催する予定としている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約については十分に時間をかけて行っている。不安なことをお聴きして、相談にのっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見箱の設置をしている。また、そら豆ユニットでは外出が多く、外出も入居者の方の意見を聴いて行っている。ご家族の面会も多く、面会時にお話を聴くようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>話せる機会をつくり、個別に面接をして、反映できるものは反映する努力をしている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>考課シート、一休会、しゃべりBAR、パソコン塾、介護福祉士勉強会など開催し、スタッフとの交流をもち、働きやすい環境づくりをしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内外研修、ミーティング内の勉強会、講演会など開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>12月より町内のグループホーム4つで連絡会をもつ予定。今後、スタッフの交換研修も開催する予定。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>スタッフは入居者の方と積極的に関係づくりをしている。特に、その方のお好きなことをお聴きして、関わるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	信頼関係がもてるように、ご家族の気持ちを聴けるように、努力している。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	面接時に記録をとり、アセスメントを作成し、入居者の方にはケアプランで提示している。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	職員と入居者で買い物、食事づくり、掃除、洗濯干しなどしている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	面会時にはゆっくりくつろげる場を提供(飲み物、場所の配慮)し、本人の状態を面会時や電話にてお伝えしている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	友人宅にお連れしたり、いつも歩いていた散歩コースにお連れしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>入居者様みなさん、日中リビングで過ごしながら、顔なじみの関係で助け合われている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>亡くなられた入居者の方のご自宅へ伺い、話の場をもったり、退居後も入院されている方のお見舞いに行ったりしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>出来るだけ思いに添えるように努力している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>生活歴については面接時にかなり細かく聴いていて、その方の生き方、生活などを大事にしている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>24時間シートを作成しているが、なかなかお一人おひとりの生活づくりまで出来切れていない部分もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>スタッフそれぞれに会議でアイデアを出しながら、計画に活かしている。担当者がケアプランのアセスメントを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の実践を記録に活かし、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>デイサービスにボランティアの方が来られる時には、グループホームの入居者の方も一緒に楽しまれたり、グループホームでのお風呂が難しい方は特養のお風呂で入らせていただいたり、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ご本人のこだわりの美容室へ行かれたり、行きつけのスーパーに行かれたり、神社に行かれたり</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>1週間に1度往診に来られる医師とは別に、ご家族が希望されれば、ご家族希望の病院へ受診される。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>グループホーム勤務の看護師とは密に連絡、連携をはかり、適切な対応が行われている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された方については、リーダー、管理者が家族やMSWと連絡をとり、早期に退院が出来るように対応している。またお見舞いにはスタッフも行って、ご本人の情報を共有している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>そら豆ユニットではまだターミナルケアの方がおられないが、重度化した場合にはご家族、医師、管理者、リーダーで話し合いをもち、方針を共有している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時の対応の訓練は1年に1回ほど行っている。連絡体制については、夜間の場合、緊急時についてなどスタッフにも周知している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>地域との防災協定を結んでいる。避難訓練も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけは常日頃、気を付けるようにしているが、完全にはできているとは言えない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選択していただけるような言葉かけをしたりしながら、ご本人が自己決定できるような配慮をしている。選挙などにも外出し、投票してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、食事、就寝時間などはその人のペースで行ってもらおうよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時はお化粧したり、毎日の中でもこだわりの乳液や化粧品が使われている方の支援をしている。洋服にも気を付けておしゃれをしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	スーパーへ買い物と一緒にいくところから、食事を楽しんで頂けるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>全体の入居者の方を一覧で見ることが出来て、わかりやすく記録されている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>その人の習慣に合わせて、朝夕の方もいれば、夕方のみの方もいれば、毎食後の方もおられて、その方に合わせてケアしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりに合わせてトイレの支援をしている。おむつであった方も今は全員パンツの対応となっている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>いも、ヨーグルト、バナナ、乳製品など積極的に取り入れている。1日2回のNHKの体操はしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>お風呂好きな方が多く、2日に1回入っておられる。お風呂の時間は出来るだけ、好きな時間に合わせるようにしている。ゆっくりくつろいでもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日中部屋で休まれる人もいれば、夕食後遅くまで起きておられる方もいる。ゆっくりとリビングで過ごして頂いている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬の一覧はユニットとスタッフルームに置いてあり、スタッフが確認している。変更があれば、看護師から報告がある。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>それぞれに好きなことが出来るような支援をしている。外出は多い。ただ、日々の生活の中でのそれぞれの時間というところでは、まだ足りないところもある。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>そら豆ユニットは、外出は特に力を入れている。昼も夜も外出の行事は特に多い。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>所持している人はそら豆ユニットはほとんどいない。お金をもつことは大切なことだが、認知症があり、難しいところもある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>スタッフルームにある電話で支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>室温など入居者の方の要望を聴いて調整している。また、共用部分は最近、机やソファを買って、居心地良い空間にするように心がけている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファなどを新しく置いて、それぞれがリビングの食卓にずっと座っていることがなるべくないようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なるべくその方のなじみのものをもってきていただくよう、ご家族に伝えている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりをつけたり、必要な方にはポータブルトイレを設置したり、また、表札もご本人の目の位置につけたりとわかるような配慮、工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 府中みどり園

作成日 平成 25 年 4 月 8 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域との防災協定を結び、訓練もしているが、入居者ごとの避難、救出方法について仕組みづくりができていない。	目で見えてわかるような仕組みづくりをする。	フロアに入居者の歩行状態・避難順位について記入した見取図を作成する。	平成25年3月に達成。今年度中に消防署にも周知する。
2	6	身体拘束についての共通認識がスタッフ全体にはできていない。	身体拘束についてのスタッフの共通理解。	身体拘束についての勉強会開催。	平成25年度中
3	10	・意見箱があっても活用できるようになっていない。 ・家族会がない。	家族が意見を出しやすい環境づくり。	・意見箱を使用できるよう整理する。 ・家族が参加できる行事を増やしていく。	平成25年度3月に達成。家族参加行事は25年度中に行う。
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。